



Michigan Newsletter

July 2025

No.10

ミシガン州経済交流駐在員

草の根交流

1. ミシガン州友好親善使節団 37 名が滋賀県を訪問！

ページ 1～5

ミシガントピック

1. 関税のミシガン州への影響について

ページ 5～6

草の根交流

1. ミシガン州友好親善使節団 30 名が滋賀県を訪問！



滋賀県では、1976 年から米国ミシガン州との姉妹交流の取組として友好親善使節団の相互派遣を行っています。奇数年はミシガン州から滋賀県へ、偶数年は滋賀県からミシガン州へ使節団を派遣しており、ミシガン州からの派遣は今年で23回目です。30名の団員が、7月8日～17日の 10 日間の日程で日本を訪れ、うち 5 日間、滋賀県に滞在しました。

団長はミシガン滋賀姉妹県州委員会の現会長、チャド・フロスト氏。団員のうち22名が使節団派遣に初めての参加。大学の先生や、姉妹都市関係者、過去の参加者等からの評判を聞いた学生 7 名も参加してくれました。

観光の日もあるものの、友好親善使節団の活動のメインは姉妹都市等のホームステイです。ホストファミリーの募集やマッチング、市役所訪問をはじめ各種交流行事の企画等、各市の担当者の皆さま、関係者の皆さまの尽力なくしてホームステイは実現せず、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

また、友好都市のセントジョンズからの団員はなかったものの、セントジョンズ市長からの手紙を預かってきた団員に表敬訪問の機会を作っていただいた湖南市の担当者の皆さまにも、団員を温かく迎えていただいたこと、感謝しかありません。

書きたいことは多数あるのですが、以下、今回の友好親善使節団の3特徴に絞って紹介します。

各姉妹都市からの参加状況

エイドリアン(守山市)	5
デウィット(甲賀市)	2
トラバースシティ(甲賀市)	2
マーシャル(甲賀市)	4
ランシング(大津市)	7
グランドラピッズ(近江八幡市)	4
アナーバー(彦根市)	3
その他(姉妹都市以外)	3

合計 30名

その1 久々の7月の開催！

15年ほど前から過ごしやすい秋の実施を続けてきましたが、今年は国体など各種行事の関係で、久々の7月の開催。梅雨明けで気温や湿度の高い毎日で、からっとしたミシガンの夏とは大違い。熱中症なども心配されましたが、ホストファミリーの皆さんのサポートもあり、幸い皆さん大きな体調不良やけが等もなく滞在を楽しんでくださいました。

計画通りに物事が進まないことが多々ある、寒い冬を毎年乗り越えているミシガンの人たちの気質は、思わぬ状況での対応力や柔軟性につながっており、今回の旅を無事終えた一因だったのでは、という分析をしています。

その2 こだわりの歓迎式典&送別レセプション

団員にとってはホストファミリーと対面する場である歓迎式典、ホームステイを終え、ホストファミリーとお別れとなる送別レセプションは特別なもので、もちろん毎回こだわって県で企画しているのですが、今回のこだわりポイントを紹介します。

会場となったびわ湖大津館は、外国人観光客の誘致を目的に県内初の国際観光ホテルとして建築された建物(旧琵琶湖ホテル本館)で、式典が開催された多目的ホールからは琵琶湖が望めます。報道機関からのインタビューにも団員数名が対応し、その日の夜のニュースで使節団滋賀県到着を知った人も多かったのではないのでしょうか。

歓迎式典では、岸本副知事より団員への歓迎、ホストファミリーへの感謝の言葉、来賓の岸守在デトロイト日本国総領事からは、ミシガンと滋賀の交流が他にはない貴重なものであること等ご挨拶をいただきました。また、高校時代を皮切りに滋賀県との交流に参加してきたフロスト団長からの挨拶では、「これまで日本各地に行ったけれども、戻ってきたと感じるのは滋賀県だけ」、という言葉もありました。





ギフト交換では、岸本副知事より、古琵琶湖層という古代の堆積物を含んだ粘土を使い薪窯で焼成された陶器のおみくじ、古琵琶湖紫香楽陶御籤(こびわこしがらきとうみくじ)が手渡されました。団員一人一人にも手渡され、その場で開封し、陶器の底に書かれた大吉、中吉等のおみくじに盛り上がりました。フロスト団長からは、団員の一人であるミシガン滋賀姉妹県州委員会副会長の描いた木版画が手渡されました。日本画の手法で描かれているのは、ミシガン州屈指の観光スポットである、スリーピング・ベアー・デューンズ国立湖岸。和の趣でミシガンの魅力を伝える贈り物でした。

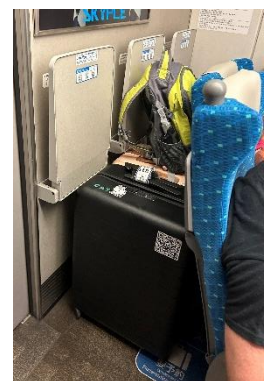
送別レセプションでは、八日市ロイヤルホテルのスタッフの皆さま、江州音頭保存会の皆さまに多大な協力を頂きました。団員が輪になって江州音頭に挑戦。ほぼ全員初めてでしたが、皆さん驚くほどノリノリで楽しんでくださいました。もちろん、その後、定番の琵琶湖周航の歌も歌いました。



その3 団員の協力のたまもの、新幹線移動

最後に、事務的ですが、東京～京都間の新幹線による移動が実現できました。前は、荷物がネックになり新幹線をあきらめ、東京から関西への移動は飛行機利用でした。新幹線を体験できるというのは旅の魅力アップにもつながるため、旅行会社とも協力し、特大荷物スペースを効率的に使い、そして何より団員のみなさんに荷物をコンパクトにしてもらい実現しました(海外旅行と思えないようなびっくりするようなサイズにまとめてくださった方も多数いました。)

到着日の東京から京都への移動は夜で、景色は見えなかったのですが、皆さん快適な車内で仮眠。帰りは残念ながら富士山は雲がかかり見えなかったそうですが、移動時間も楽しんでもらえたようです。皆さんが使節団の価値や意味を理解した上で、団体旅行に伴う制約にも協力的だったのは大変ありがたかったです。



その他、帰国後に団員の皆さんからいただいた感想を簡単にご紹介します。

○事前に興味のある分野を伝えていたら、ホストファミリーが書道体験や、地元のコミュニティセンター見学を企画してくれた。コミュニティセンターはアメリカと似ているところもあり興味深かった。

○初めての日本で、寺社仏閣や、陶芸体験など様々な体験ができた。これから日本語も勉強してみたい。

○行ってみるまでは、言葉も人も町も全く知らない場所。そんな場所が、5 日間の間にかけがえのない場所になった。こういった体験が、世界に目を開き、考え方を変えるきっかけになる。世界はアメリカだけでないと知ることは大切。ホームステイ期間中に会った人は皆温かく寛大で、ホスピタリティーにあふれていた。

○市役所への表敬訪問は緊張したが、これまでの交流への感謝、そして今回受け入れてもらえることへの感謝を伝えることができた。ホストファミリーにも協力してもらい、持参したギフトの意味なども伝えることができた。

○(これまで滋賀県からの団員がミシガンに来た際ホストファミリーになったことのある団員より)ホストファミリーとして、外国から来た人たちに自分の街を紹介する、案内するということは、自分の街のことをよく知ることにつながる。両方の気持ちを体験できるとよい。



友好親善使節団の募集をする際、普通の観光旅行では味わえない体験ができます！とアピールすることも多いのですが、なぜ観光旅行でないかと言われれば、ホームステイができることが一番に挙げられるかと思います。12 年前の私が使節団に応募してミシガンの地を初めて踏んだのも、ホームステイしたら、アメリカの人たちと友達になれるのでは、ニュースだけではわからないアメリカのことがわかるのでは、といった思いからでした。

ホームステイできる、というのは主観的なのですが、使節団に参加して姉妹都市である町にホームステイしているその私は、客観的には、観光客でなく、その姉妹都市からの代表、まさに使節です。当時大津市民だった私は、姉妹都市のランシングの市庁舎を訪問し、市長や担当者と会ったことを今でも鮮明に覚えています。どんな役割を果たしていたのかは、正直なところよくわかっていませんでしたが。

この仕事をしている今でも、町の代表とかそんなに固いこと言わず、軽い気持ちで使節団に参加してもらって、参加をきっかけに姉妹県州や姉妹都市活動に関わってもらえたらいい、と思うことも多いです。それでも、自分の町や地域を代表して訪問している、という意識は大切です。というのも、受け入れる側の姉妹都市の方にとっては、一般の市民であっても、姉妹都市からの団員がはるばる自分の町に来ていることは大変なインパクトを持つからです。それがたった一人でもです。昨年 9 月に滋賀県の団員がミシガン州内の姉妹都市を訪問した際も、

一つの姉妹都市を訪問した使節団員が一人というケースが複数見受けられました。それでも、市から大歓迎を受け、驚きと感動でいっぱいになった団員もいました。団員の訪問をきっかけに姉妹都市活動の重要性を再認識して下さった市担当者もあり、一人の団員の持つ力に改めて気づかされました。

これまでの長い使節団の歴史の中で、使節団の持つ意味や役割も少しずつ変わってきている、と長年関わってきたミシガン側の関係者から聞くことがあります。使節団が始まった当初は、市長や市議会議員などの公職者の参加が今よりも多かったそうです。それが近年、姉妹交流の意味やこれまでの交流のことを全く知らない、関心のない参加者が目立つようになってきている、という見解もあります。姉妹交流に興味がない人はそもそも使節団に応募しないのでは、とも思いますが、来年で 50 年目を迎えるこの事業の意味が変わっていくのは自然なことかもしれません。

そもそも、使節団は市民レベルで交流を進めることを目的に始まっており、この使節団を毎年定期的に、相互に送り合うことで、教育、文化の交流、環境交流などにつながってきました。改めて市民同士がつながる力の大きさを感じます。なぜこんなにホストファミリーによくしてもらえるのかと驚く団員も多いのですが、ホストファミリーは元使節団員であることも多く、これまでの交流に関わってきたたくさんの方々、そして今回この輪に加わっていただいた関係者、ホストファミリーの皆さまの善意が積み重なって今年の友好親善使節団も実現できたのだと思います。改めて、ご協力いただきありがとうございました。

ミシガントピック

1. 関税のミシガン州への影響について

ホイットマー州知事は、7 月 31 日、州の各種機関に対して関税が州経済に与える最新の影響を調査し報告するよう求める行政命令に署名しました。

関税はすでにミシガン州の製造業に打撃を与えており、米国自動車企業ビッグ 3 のステランティスやゼネラルモーターズは多額の損失をすでに報告しており、フォードは関税による損失を 20 億ドルに達すると発表しています。関税の影響により、工場の閉鎖や、新しい工場の誘致計画の頓挫など影響が広がっています。

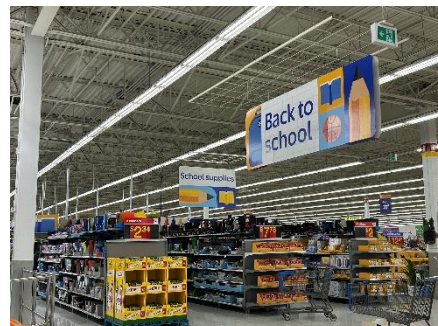
ミシガン州は農業も盛んですが、飼料原料、肥料などをカナダやメキシコとの自由貿易に依存しており、中国との貿易戦争でミシガン州の農家は毎年約 1 億ドルの損失を被るという予測もあります。

企業が関税の影響を受けるのはもちろんですが、企業が関税コストの 60%を消費者に転嫁すると予想されているため、最も大きな打撃を受けるのは消費者とされています。

ホイットマー州知事は、同時期に、新学期シーズンにおけるミシガン州の家庭への関税の影響にも懸念を表明しています。関税によるインフレにより、新学期用品の価格は 12～15%上昇、紙の価格にいたっては最大

200%上昇すると予想されています。ウォルマート、ターゲット、アマゾン、コストコといった大手小売業者は、価格を引き上げると発表。本、靴、リュックサックなどの購入が必要な家庭に影響が見込まれており、ホイットマー州知事は、すべての子供がのために必要なリソースを確保していくと表明しています。

駐在員の学校区では学用品は基本的に学校から支給されることもあり、今のところ目立った影響を耳にすることはないのですが、これまでから、アメリカの紙製品の高さには驚かされており、生活必需品のトイレtpーパーやティッシュペーパー等が今の2倍の価格になったらと思うと恐ろしいです。さらに、日本食をこちらで作るには欠かせない、醤油やみそなどの調味料や食材なども多くは輸入品。価格がこれから上がっていくことを考えると、日本から来ている駐在員の家庭はもちろんですが、日本からの留学生の皆さんの生活にも大きな影響があるのではないかと懸念しています。



大手小売店の学用品コーナー